

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770107932
法人名	医療法人 誓歯会
事業所名	グローブハウス
訪問調査日	平成 21 年 8 月 31 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 2 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2770107932
法人名	医療法人 誓歯会
事業所名	グローブハウス
所在地	堺市西区浜寺石津町中2丁6番28号 (電話) 072-280-2088

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年8月31日	評価確定日	平成21年10月2日

【情報提供票より】(21年 7月 25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤 4 人, 非常勤 21 人, 常勤換算	12.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000~65,000 円	その他の経費(月額)	35,000円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,350 円

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	63 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慈友会 堺山口病院	柳田内科	小森歯科
---------	----------------	------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して4年3ヶ月の月日と近隣の小学校・保育所との交流が、当グループホームの利用者の地域での暮らしを豊かにしている要因のひとつとなっているようだ。またレクへの多様なボランティアの導入と、併設デイサービスとの共同行事なども地域との繋がりを強いものにしている。医療連携加算による医師の随時往診や、職員で看護師の資格者が夜勤に専任することは、重度化が進む現状では利用者・家族のみならず、他職員にとっても心強いものがあるだろう。希望や状況に合わせた個別レクの推進で、職員の利用者への気付きと関心が深まり、「安心と信頼に基づいた安らぎのある暮らしを提供する」ことに意欲的に取り組もうとしている姿勢が、利用者の心身ともに安定して生活している笑顔により一層現れることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①地域密着をより意識した理念の見直し、については「地域住民との交流を通じ」の文言を用い改善を図っている。②研修計画と実施について組織的に取り組む、については年次計画を立て、ユニット会議後のテーマ別研修実施や外部研修の推奨などに取り組みへの努力をみる。余裕があるとはいえない人員配置での難しさは理解するが、なお一層の努力に期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各フロアでリーダーを中心に自己評価作業を行い、リーダーが集約したものを管理者と計画作成担当者が夫々の立場で検討して表記するするという仕組みで実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開催期、参加構成員、会議内容ともに順当であることを確認する。区内他のグループホームの管理者等の参加による種々の情報交換は、当事業所のサービスの資質向上に活かされている。と共に家族代表や地域代表のグループホームと地域密着への理解を深めることに繋がるであろう。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月各個人の状況を報告する「月のお知らせ」に、意見・苦情の記入欄を設けている。家族来訪時には懇談の機会を逃さず、時間を惜しまずに意見等を傾聴している。意見・苦情の大小に拘らず職員間で共有し、改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣小学校3年生との年間(授業計画)を通じての交流、登下校時のパトロール参加、地域各ボランティアの受け入れ、利用者を介する近在の教会行事への参加など、多岐に亘っての地域交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	既存のものに「地域住民との交流を通じ、」の一文を挿入することにより、地域密着を意識した独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	フロア内に掲示するとともに、毎日手にし目に触れる管理日誌裏表紙と各人の名札に理念を記入し、利用者との関わりで常に意識するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣小学校3年生と年間(授業計画)を通じての交流、登下校時のパトロール参加、日曜礼拝に行く利用者を介して教会行事への参加、その他多岐に亘る地域住民・団体との交流がある。随時に無料で介護相談に応じるなど、地域に溶けこむ努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	リーダーを中心としたフロア毎の自己評価作業を、管理者と計画作成担当者が夫々の立場で纏めることにより、評価の意義の理解と改善への具体的取り組みの共有が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催期・構成メンバー・会議内容ともに妥当であり、議事録も整備されている。区内の他グループホーム関係者の参加があり、それらの情報交換はサービス向上と、家族代表や地元代表等が、ホームと地域密着の理解を深めることに大いに役立っているようだ。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者虐待防止ネットワークの企画委員に参加など、事務手続き等の必要時以外の交流もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月刊行の通信物以外に、個別の「月のお知らせ」で担当者から詳しい状況報告をしている。家族来訪時や緊急時には随時必要事項の連絡・報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で、また個別の「月のお知らせ」に、家族からの記入欄を設けることにより、事の大小に拘らず意見・要望等を徴収している。課題は職員間で共有し、改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとの担当者固定はあるが、併設デイサービスとの共同行事などで、全職員が関わりをもつ場面があり、職員異動への違和感は薄いようだ。ユニット会議での看護師による勉強会が、職員のメンタル面での支援にもなっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立案し、ユニットごとの研修実施や外部研修、他事業所実習の参加を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区内同業者(11ヶ所)と月1回の連絡会を各区持ち回りで主催し、地域包括支援センターの職員にも参加いただいている。他ホームへの実習参加の機会をつくり、職員相互の交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族を含め数回の見学、自宅での面談、介護・医療に関する担当者との面談など、出来る限りの話し合いの環境を通じて利用者との関係づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男・女夫々、永年身につけてきたもの、生活での出来事に関心を寄せ、安心と信頼に基づいたその人らしい生き方を支援する関係でありたいとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	より良いケアは利用者をよく知ることから始まると、面談時に詳細なフェースシートを作成、職員全員で共有している。更に個別レク(1対1の外出)の機会に、打ち解けた雰囲気の中での何気ない会話から意向を把握する努力もしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者を中心にした職員会議で、フェースシート等を参考に話し合い、家族の要望やかかりつけ医の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1度は必ずケアプランの見直しを行っている。その間の変化については大小に拘らず、随時に検討・見直しにより新しい介護計画を作成し、家族に連絡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できない時の通院支援、認知症専門医への受診支援、看護師職員へのオンコール体制、早期退院に向けた病院との連携、特別外出(墓参・買い物・日曜礼拝など)の支援、出来る限りの柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、利用者全員が連携医療機関をかかりつけ医とし、週に2回の往診がある。週1回の歯科衛生士によるケア訪問がある。その他の婦人科・皮膚科などについては専門医を紹介し、受診支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の最大の関心事である。出来るだけ早期に本人・家族・かかりつけ医と話し合うことにしている。入居時に「看取りに関する指針」を提示、話し合いを繰り返して記録を保持している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に守秘義務について研修、新職員の同意契約を取っている。トイレ誘導や失禁時対応には充分気をつけ、個人情報資料は施錠のロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は本人に決めてもらい、一人ひとりの生活ペースやリズムを、団体生活にうまく溶けこませるよう工夫している。入浴後に着る服も本人が選ぶようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに利用者と一緒に献立を考え、スーパーから食材を配達させている。調理・盛り付け・配下膳も出来る範囲での参加を促している。職員も一緒に食事をとりながら、さりげなくその人に合わせた介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者と話し合い、目安としての入浴回数・曜日を決めて、一覧表を貼り出している。入浴のタイミングは自由であり、併設デイサービスの大浴場を好む人にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々に、簡単な役割で生活に張り合いを持ったり、日々の状態に応じて好きなことをしている。花見・書道・抒情歌の合唱・屋上でのバーベキュー・外食など、入居前の生活に近づけるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じ楽しめるように、近隣住民と挨拶も交わしながら、ほぼ毎日散歩や買い物に出かけている。登下校時の子供パトロールに参加して、小学生との交流も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関は施錠していない。フロアからEVホールへの出入りは、センサー対応で自由であり、安全を確認しつつ見守りケアを心掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間の災害には、職員数も多く冷静に対応できるだろうとしているが、ユニットに職員が一人という夜間については大いに不安を抱いている。運営推進会議では、緊急避難について支援を得られるよう話し合いがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のバイタルチェックや排泄チェックと共に、食事や水分の摂取量についても記録している。栄養バランスについても十分に検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は広さも十分で、明るく清潔である。利用者の作品や職員手作りの掲示物(七夕や小学生との交流風景)が壁面を彩っている。が、若干季節感が乏しい。利用者が身体を横たえ、集える場所として和室も備えられているが利用は少ないようだ。	○	利用者の状況によっては困難でもあろうが、観葉植物や生花などで季節感を出す工夫を望む。和室の活用についても今ひとつの努力を期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには目線に合わせたひらがなの表札がある。室内は夫々の状態に合ったベッド、持込の家具に家族写真や飾り物などが置かれ、自宅の雰囲気を感じさせる工夫がある。		